



第59回

貨幣デザイナー

※2024年4月の毎日小学生新聞記事を元にした文章です。

校閲し、直すべきところを指摘していただきます。

◆独立行政法人造幣局 事業部工芸課 阿部健太郎さん

貨幣デザイナーとは、記念貨幣だけでなく、いま世の中に出回っている流通貨幣のデータづくりをする仕事です。パソコンを使って、小さな丸の中にバランスの良いデザインを考えます。また、金属の特性や限界を理解しながら、どういうデザインが高品質でムラなく量産できるかを常に考え、工夫しなければいけません。阿部さんは、開催が2年後に迫る大阪・関西万博の記念貨幣のデザインを担当しました。「造幣局を管理する内閣府と連絡を取りながらデザインコン

セプトを決め、2025年日本国際博覧協会の協力を得て、デザインしました。大阪・関西万博の記念貨幣としては2枚目となる2次発行のデザインは、金属でありながらも、ハートの部分が透明に見えるようにこだわりました」と振り返ります。デザイン作成から、財務省や専門家らによるデザイン検討会での協議を経て、デザインの採用が決定します。その後、デザインの彫刻をするなど、さまざまな部署が製造に加わり、約2年ほどかけてようやく記念貨幣が完成するのだそうです。「すべての行程において、常にデータの調整や

確認をしないといけないので、デザイン決定後もずっと貨幣づく

りには携さわり続けています。自分のイメージに近いものが完成すると、ホッとします」と阿倍さん

は笑顔を見せます。貨幣デザイナーとして造幣局で働き始めて20年。いままでデザインした記念貨幣は30を超えます。「自分の

デザインがお金になると、うれしいし、モチベーションにつながる」と話します。「これからも、日々更新されている金属の加工技術

を使って、どう表現したら魅力的な商品を作れるかを考えていきたい」

◆この仕事につくには

特に資格は必要ありませんが、美術系の大学を卒業している必要があります。さまざま部署と交渉・調整をしながら製品をつくるため、自分の意見

が言え、かつ柔軟な対応ができる人が向いています。

◆ある一日

7時 起床

8時 出勤後、メールチェック、その日の作業確認など

9時 ミーティング後、貨幣のデザイン作業

12時 昼食

13時 商品についての打ち合わせ

14時 データを作成し、PDFで送信。

16時 製造途中の製品金型のチェック

18時 帰宅